

令和6年度 府中市立府中第八小学校学校経営報告

令和7年3月3日

校長 松下 雄太

1 今年度の取組と自己評価 【今年度本校の目指す学校】

〈経営計画より〉

（教育目標）

人間尊重の精神を基調とし、平和を愛し、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指す。

◎「学び続ける子」(重点目標)

主体的に学び、目標を達成する「学びを操縦する力」を育成する。

○「仲良く助け合う子」

かかわりを大切にし、相手を思いやる「人権を大切にする心」を育成する。

○「たくましい子」

体力を高め、健康的な生活習慣を身に付ける「健康管理の実践力」を育成する。

1 目指す学校像

創立68年の歴史と伝統を受け継ぎながら、ふるさと府中に誇りをもち、世界に活躍する府中っ子を育てる。保護者、地域の信頼に応え、教育目標である知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指す。

（目指す学校）

(1) 『子供たちのための学校』として、子供が第一の学校づくりを推進する。

毎日元気に、仲良く生活し、子供たちのよさを伸ばす学校 『人に優しく、自分に強く』

○子供たち一人一人を大切に見守る。

・子供たちが安心して学べる学校(仲良く助け合う友達、話を聞いてくれる先生)をつくる。

○子供たちのよさや可能性を引き出す。

・「やれば(成長)できる」ときめ細かく支援し、子供たちの主体的に学ぶ姿勢を育む。

(2) 教職員が、子供たちのために協働する学校づくりを推進する。

教職員が一丸となって、子供たちの成長を支える学校 『八小の子はみんなの子』

○教職員が、心を合わせて真摯に取り組む。

・子供たちの心に寄り添い、保護者との連携に誠実に取り組む。

○教職員が、力を合わせて真剣に取り組む。

・子供たちのために指導力を高め、よい授業をつくり、教育活動を発展させる。

(3) 保護者・地域と連携する学校づくりを推進する。(連携して教育の効果をあげる)

保護者・地域と共に、子供たちを育てる学校 『共育(ともいく)』

○学校の役割(学力や体力の向上、豊かな情操の育成、規範意識の醸成)

○家庭の役割(子供たちの心の支え、愛情を注がれ温かく見守られる教育—家庭教育)

○地域の役割(学んだことを社会の中で実践する—ふるさと府中を愛し世界にはばたく)

(1) 教育活動の取組と自己評価

①「主体的に学び続ける児童の育成」を目指して、教員が一丸となり研究に取り組む」について

〈経営計画より〉

- ・ 学習活動に「見通す」「振り返る」ことを設定して、学びを操縦する力を高める。
- ・ 積極的にICTを活用し、主体的な学びにつながる授業改善に取り組む。
- ・ 授業公開を通して、指導技術を高め、積極的に人材育成を図る。
- ・ 校内研究を通して、年間指導計画を見直し、組織的に教科研究を図る。
- ・ 読書活動を推進するとともに、漢字や計算などの基礎基本の確実な定着を図る。
- ・ 交換授業や少人数指導、講師などを活用し、学習指導の充実を図る。
- ・ 服務規律を守り、職務を全うする。そのための研修や調査を実施する。

〈取組と自己評価〉

今年度は学校経営の主軸を、校内研究に置き、全教職員が一丸となって授業改善に取り組んだ。府中市研究奨励校の重責を担い、「主体的に学び続ける児童の育成」を研究主題に掲げ、3学期に研究発表会を開催し、成果と課題を市内外に発信できたことは、大きな成果だと考えている。プロセスとして、年度当初に研究の主題を「児童の主体性の育成」に絞り、1学期に全6学年で研究授業に取り組んだ。授業日に2学年が同時に研究授業を行ったため、教職員の意思疎通を図ることがより求められたが、結束して課題解決に当たることができた。それにより研究の方向性が定まり、2学期に実践を重ねながら指導案を練り上げ、発表当日を迎えることができた。

児童の主体性を高めるために、まず単元計画を見直した。単元の導入時において、児童によい気付きや疑問を与える指導が必要であることや、展開時には、児童個人の探究的な学習を軸に、対話を通して学びを深めるように導く指導が求められること、さらには単元の終末で、児童が自らの力で単元のゴールに到達するよう足場架けを行う指導が重要であることなどは、研究を進める中で明確になったことである。一斉指導ではない難しさを教師自身が学び、主体的に単元計画に創意工夫を取り入れた。さらに毎回の授業では、児童の思考力、判断力、表現力を伸ばすために、積極的に対話を増やし、子供たち同士の学び合いによる、いわゆる複線型の授業を重視した。児童を学びの主演とし、学びを主体的に操縦していくことができるように、教師はファシリテートする力を身に付けるよう努力した。その結果、児童は自ら見通しをもって学習に臨み、学びを振り返りながら深めていくことに達成感を感じていた。同時に児童が、ICTを効果的に活用することで、学びを操縦しやすくなることが実践する中で判明した。研究を終えた今、教職員も手ごたえを感じており、次年度もこの研究主題を継続するとともに、eポートフォリオとして学びのアルバムを充実させ、児童の主体性を育成していくことを全教員で確認している。

また、この研究に当たっては、東京学芸大学の森本康彦教授に、親切丁寧にご指導いただいた。研究奨励校として、2年間にわたり森本先生を、年間講師に招聘できた

ことが、教職員にとって大きな財産になった。児童の主体性を育成することは、次期学習指導要領の主旨でもあり、本市の授業改善グランドデザインにある、「発見」「対話」「決定」「表現」の学習活動に沿った研究である。教職員の指導力向上、そして何より児童の学習意欲の向上につながる研究であった。

最後に、人材活用面では、今年度、英語担当教員が配置でき、デジタル教科書を効果的に活用し成果を上げたことや、全学年算数で、少人数指導やT T指導のための教員や支援員を配置できたこと、さらには高学年理科での都講師による指導、1～3年生での音楽講師、市学習支援員を活用した授業補助など、児童の学力の定着に取り組むことができた。基礎的な知識技能を習得する場面では、教師主導の一斉授業も大切にしつつ、担任と専科教員、講師、支援員、特別支援教室教員が互いに連携して、児童の基礎基本の定着に向けて指導にあたってきた。今後も継続して、児童に学ぶ楽しさを味わわせ、主体的に学び続ける姿を育成していく。

② 「安心して生活し、仲良く助け合う児童を育成する」について

〈経営計画より〉

- ・ 人権尊重教育を徹底し、互いを尊重し、助け合い、協力し合う学級経営を行う。
- ・ 人との絆の中で、思いやりの心を育て、笑顔が輝く体験活動を推進する。
- ・ 児童の健康・安全を第一に考え、大きなけがや事故ゼロを目指す。
- ・ いじめ防止対策基本方針を遵守し、いじめの見逃しをゼロにする。
- ・ 特別支援理解教育を推進し、課題のある児童への対応や不登校対策を組織的に行う。
- ・ 保護者との連絡を密にし、共に考え、共に育てる関係を構築する。
- ・ 特別活動や集団登校を通して、全校児童が豊かに関わる中で、主体性や社会性を育む。
- ・ あいさつや正しい言葉遣い、きまりを守るなど基本的な生活習慣を指導育成する。

〈取組と自己評価〉

今年度も「いじめ暴力ゼロ」をスローガンに掲げ、「人に優しく、自分に強く」を合言葉に、全校朝会での講話を通して、児童の心に語りかけてきた。また毎朝、交通安全指導を行いつつ、たくさんの児童とあいさつを交わし、休み時間は校庭に出て、鉄棒やなわとびを教えながら、全児童を掌握するよう努め、問題の未然防止に取り組んできた。その場で気になったことは、常に教職員と共有している。

また、教職員は、毎朝教室や廊下、昇降口で児童を温かく迎えている。教職員には、人権尊重教育を徹底し、互いを尊重し、思いやる温かい人間関係を構築するような指導を行うように日々助言している。さらに、校務を改善し、会議を減らすなど、児童と教職員が関わる時間を増やし、問題の未然防止、早期発見、早期解決に取り組んできた。

学校生活の中で、友達とのかかわり合いから生じる日常的な衝突は、社会性を伸ばすプロセスでもあり、問題の解決を通して、相手の気持ちを考える力を身に付け、より良い人間関係を作るきっかけでもある。しかし、解決の仕方が不十分な場合は、いじめにつながる可能性が高いことを引き続き担任に指導した。また、子供たちには、「困ったら

先生に相談すること」を常に伝えるとともに、毎月の心の天気予報や年間3回のふれあい月間のアンケートを確実に実施し、いじめの未然防止に全力を挙げてきた。

今後も、問題行動の未然防止と、確実な早期解決に向けて、担任のみならず、専科教員や特別支援教室教員、講師や支援員などすべての教職員が、「八小の子は、みんなの子」のスローガンのもと、児童理解を深めていく。また、「いじめ防止対策基本方針」(HPに掲載)に基づき、組織的に問題に対応していく。現在いじめの事案はないが、日常的な児童同士のトラブルや、個別の対応事案は度々発生する。また、SNSによるトラブルは、発見することが難しく、保護者と連携した指導が必要であり、引き続ききめ細かく対応していく。

不登校及び不登校傾向の児童については、学級担任と特別支援コーディネーター、生活指導主任、支援員などと連携し、管理職と情報を共有しながら組織的に対応している。オンラインによる発信や、「サポートルーム」での支援のほか、スクール・カウンセラーや他機関を介して家庭と連携するなど対応している。現在継続しているケースもあり、組織的な取組を粘り強く行っていく。

また、本校では、「人との関わりの中で思いやりの心を育てる学校」という方針のもと、宿泊学習や遠足、子供のつどいといった学校行事など、全ての教育活動で、人と豊かに関わる活動を取り入れている。特別活動では、全校児童による異学年集団の「たてわり班活動」があり、集会やあいさつ運動では、高学年児童の下級生に対する優しさやリーダーシップを育んだ。鼓笛活動もあり、下級生も高学年に対して、頼りがいや憧れを感じており、関わり合いを通して、優しい気持ちを育むことができた。3月には、卒業する6年生に下級生が感謝の手紙を渡し交流を深めた。

③「体力の向上を図り、健康的な生活習慣を身に付ける児童を育成する」について

〈経営計画より〉

- ・ 運動に親しみ、体力を高め、健康的な生活習慣を身に付ける児童の育成に取り組む。
- ・ 体育授業の授業改善を図り、運動量を確保し、体力向上を図る。
- ・ 体力テストの結果を分析し、体力向上の方策を立てマネジメントする。
- ・ マラソン週間、なわとび月間など体育的活動を推進する。

〈取組と自己評価〉

今年度は、地球温暖化の影響か、7月から9月まで観測史上最高の猛暑になった。夏季水泳指導を計画したが、WGBT指数が早朝より基準を超えたため、ほとんど実施できなかった。9月以降も、常に熱中症のリスクを考慮して、きめ細かな児童観察や日陰での休憩時間の確保、定期的な水分補給などの対策をしながら運動会の練習を行った。水泳指導と運動会共に、無事に実施できたが、今後も実施時期や内容を検討する必要がある。特に運動の順番待ちなどで、猛暑の中にいることのないように、指導方法の見直しを行っていく。

運動会は、新校庭で2回目となるが、子供たちが思い切り体を動かし躍動する姿や、

大声で応援する姿が、保護者や地域の方々に喜ばれた。鼓笛をオープニングに実施し、全体の入場行進につなげたことで、迫力ある開会式ができた。校庭全体を望むことができる校舎2階のバルコニーも大変好評であった。今年度、運動会後に、校庭のテントの撤収をお手伝いしてくださる保護者の方がとても多く、心から感謝申し上げたい。

体育的行事については、体育集会や休み時間を使って、長なわを使った8の字跳びや、5分間ランニングなど、運動の日常化に取り組んだ。特に秋の持久走週間では、全教員も参加して、中休みに3学年ずつ、毎日走り込み、運動する楽しさを味わわせることができた。冬の時期も、なわ跳び運動を推進しており、子供たちは、自己の目標に向かって主体的に取り組み、体力を高めている。

今後も、授業では運動量を確保して、運動の特性に応じた楽しさを味わわせたい。また外遊びを推奨するため、授業の終了時刻を守り、休み時間を保障していく。来年度は、体育の授業改善や体育的活動のマネジメントをさらに充実させ、児童がさらに主体的に、体力向上に向けて取り組めるように組織的に運営する。

④「コミュニティスクールを推進する」について

〈経営計画より〉

- ・ 地域と連携し、特色ある教育活動である稲作活動、鼓笛活動を推進する。
- ・ 学校便りやHPで本校の教育活動を発信し、一層の連携強化を図る。
- ・ 来校行事を通じて、保護者や地域の方々に、教育活動を発信する。
- ・ お囃子会やおはなし会の方々など教育支援ボランティアの力を教育活動に生かす。
- ・ 市や地域主催の行事に、児童の参加を奨励し、地域の一員としての自覚を促す。
- ・ 保護者アンケートやスクールコミュニティ協議会評価などを教育活動に生かす。
- ・ 災害発生を想定した防災教育を進め、地域と連携した体制を構築する。
- ・ 未来へつなぐ府中2020レガシー教育を推進し伝統の継承や努力の大切さを学ぶ。

〈取組と自己評価〉

今年度、新しい取組となったのは、3年生の「大根フェスティバル」である。西門前の畑を利用して大根を育て、収穫し、学校公開時に販売活動を行った。児童の主体的な活動になるように、カリキュラム・マネジメントの視点から、以前行った商業施設見学の体験を生かして、大根の販売方法を工夫したり、購買意欲を高める広報活動を展開したりと創意工夫した。当日は盛況となり、収益金はユニセフに募金し、児童の達成感につながった。地域農家の伊藤久夫氏のご指導と、古川博文氏の農業体験の賜物である。

本校の特色ある教育活動で、稲作活動と鼓笛活動は、50年以上も続く伝統のある教育活動である。稲作活動では、今年も5年生が、春の種まきから苗とり、6月の田植え、10月の稲刈り、さらにその後刈り取った稲穂の脱穀から精米まで体験した。12月の収穫発表集会では、全校児童に、これまでの稲作学習をプレゼンにまとめて発表した。

今年度も伊藤久夫氏、鈴木光男氏、古川博文氏をはじめ、本校の歴代PTA会長や現PTA会長、PTA役員の皆様と稲作ボランティアの保護者の皆様などたくさんの方々

にご協力をいただき、充実した活動を行うことができた。心から感謝申し上げたい。

また、鼓笛活動は、6年生全員による演奏活動である。毎週月曜日の全校朝会では、全校児童が、演奏に合わせて行進することで、心をそろえるという教育目標の達成に向けて、最上級生としての責任を果たしている。

秋の運動会では、オープニングでマーチングドリルを発表し、バルコニーから多くの保護者や地域の皆様にご参観いただいた。10月には、市制70周年記念行事に参加し、フォーリス前で力強い演奏を披露した。その後、鼓笛活動を5年生に引き継ぐ時期になり、先輩後輩にあたる師弟となり教え合う活動を行った。それにより5年生に、楽器に託された思いを受け継ぐ気持ちが育まれた。2月15日（土）に「移杖式」を実施し、6年生が練習の成果を発表し、有終の美を飾った。「移杖式」は全校児童、地域、保護者が多数参観し、本校の伝統を受け継ぐ場面を、全員で見届ける大切な学校行事である。晴天の中、盛大に開催でき、本校の伝統を誇りに思う気持ちを皆が共有できた。

その他にも、八小おはなし会の方々にご協力いただき、毎週金曜日に読み聞かせを行った。是政囃子保存会の皆さんによる体験学習も、2月の学校公開時に、多くの保護者の参観のもとで実施できた。

学校公開は、毎学期に実施した。道徳授業地区公開講座では、本校のスクール・カウンセラー吉田諭江氏を講師に招き、身近な子育ての悩みを共有する時間をもつことができた。その結果、面談を希望される方が増え、学校と家庭とが連携して子供を見守る「共育」につながっている。

さらには、学校便りやHP、スマート連絡帳などで、教育活動を多く発信し、地域や保護者の皆様のご理解とご協力をいただいた。今後も、保護者アンケートや、スクールコミュニティ協議会での評価を教育活動に生かし、連携強化を図っていく。

⑤「府中第九中学校との小中連携を推進する」について

〈経営計画より〉

- ・ 小中連携コーディネーターを中心に、年間3回の小中連携の日を充実させる。
- ・ 各教科の課題について話し合い、9年間の教育課程を見据えた連携を行う。

秋の運動会の実施、出張授業や小中教員の実技研修など、教員間の連携を深める。

〈取組と自己評価〉

本校と府中第九中学校の2校で、研修会を実施し、年間3回の小中連携の日を計画的に行った。今年度は、小中互いの授業を参観し、協議会で議論しながら、共通理解を図ることができた。3学期には、府中第九中学校の教員が本校の6年生に出張授業を行い、中学へ向かう心構えを育むよい機会になった。さらには、1月24日（金）に行った本校の研究発表会に、九中の全教員が参加してくださった。これからの授業改善の方向性やICT活用の実践について、共通理解したことが、今後の連携をしていく上で貴重であったと中学校の齊藤校長先生からお話をいただいた。次年度も、9年間の学びと育ちの連続性を見据えながら実践を積み重ねていく。

本年度の重点目標と方策（数値目標）保護者アンケートの結果より

① 学校の方針、教育活動、児童の様子を積極的に伝える（90%以上）

【95%】（「よくできている」「できている」の回答割合の合計値。以下同様。）

昨年と同様の数値結果となった。学校公開日や授業参観、保護者会を開催し、児童のふだん通りの学校生活をご覧いただき、また、運動会や音楽会、移杖式など、全校児童が一斉に活動する様子も、ご覧いただくことができた。校庭全体を見渡せる広々としたバルコニーから、児童の活動の様子をご覧いただけたことは、とても喜ばしいことである。HPをさらに活用するなど、広報活動を改善していく。

② 通知やメールなどで、児童の安全にしっかり取り組む（95%以上）

【98%】

スマート連絡帳の積極的な活用により、情報発信力を高めることができたことが、高評価につながっていると考えている。現在99%のご家庭に登録をさせていただき、緊急連絡体制を整えることができている。災害や不審者等への危機管理体制を引き続き整え、迅速かつ組織的に対応していく。今後とも、通知やメールの確認等、ご理解とご協力をお願いいたします。

③ 児童が学習しやすい環境を整える（80%以上）

【98%】

新校舎になり2年目を迎えている。前述のバルコニーや、木材をふんだんに使った共有スペース、天井から光が差し込む明るい教室、広い廊下、活動しやすい特別教室、開放的な昇降口など、素晴らしい環境になったことが、高評価につながっていると考えている。教室後方のホワイトボードを掲示用ではなく学習用として活用し、児童の思考力を深めることができた。今後も学校を広く開放し、新校舎の環境を、より効果的に活用した学習の様子をご覧いただきたいと考えている。

④ 稲作活動や鼓笛活動など、特色ある教育活動を充実させる（80%以上）

【97%】

「よくできている」が67%と全項目の中で1番評価していただいた。稲作活動では、今年度も引き続き、3名の地域協力者の皆様にご指導いただいた。本校の大先輩で、長年この活動に携わっていただいております、スクールコミュニティー協議会委員としても、学校を支えていただいている。新校舎を活用して、脱穀・搥り作業も無事に行うことができた。昨年度以上の猛暑により収穫量が減ったことから、気候と植物の成長とは、密接にかかわりがあることも学ぶことができた。

鼓笛活動では、運動会や移杖式での演奏を、大々的に発表できたことが、高評価につながったと考えている。バルコニーから、児童の様子を参観できることを、喜んでいる保護者がとても多く、これまで設計や建設に携わってきた、多くの関係者の苦勞が報われたことは感無量である。また、今年度は、府中市制70周年記念パ

レードに参加し、フォーリス前で力強い演奏を発表したことで、地域貢献になったことは、児童、保護者や地域の皆様にとってよい思い出になったと考えている。

⑤ 来校対応、電話対応、連絡帳対応を誠実に行う（90%以上）

【95%】

昨年度と同様の数値となった。今後も学校は、保護者や地域の皆様とともに、子供を育てていることを忘れず、接遇対応については、さらに丁寧に誠実に行いたい。お子さんのことでご相談があるときは、遠慮なく、学校までご相談ください。

⑥ 学習内容を丁寧に教え、学習意欲を高めている。（90%以上）

【96%】

昨年度より4ポイント高くなった。「よくできている」が49%、「できている」が47%であった。学校は、学びに向かう力を育てるところであり、今年度、児童の主体性の育成に力を注いでいる。タブレットをツールとして活用した学習にも積極的に取り組み、eポートフォリオやデジタル教科書の活用を推進してきた。児童が自らの学びに効果的に使えるよう、ICT機器については、使用のルールも含めて、今後も指導を継続していく。本校では、中学年の総合的な学習の時間を使って、週1時間ICT指導を行っている。その結果、高学年になってから、ICT機器を使うことに積極的な児童が多い。さらには、第3回小中連携の時に、中学校でもその成果が表れているという報告を受けたことも成果である。

また、算数では、3年生以上で、習熟度別の少人数学習を取り入れている。一人一人の学習の理解度を確かめながら、つまずきに対応して、誰一人学び残しのないように指導支援していく。

⑦ 児童の声に耳を傾け、しっかり受け止めている（90%以上）

【92%】

「よくできている」が42%（6ポイントアップ）に対し「できている」が50%（7ポイントダウン）であった。高評価であるが、さらに「よくできている」と支持していただけるよう、担任だけでなく、すべての教員が、八小の全児童に気を配り、心配な時には積極的に声をかけていく。毎朝、専科と特別支援教室教員は昇降口で挨拶し、担任は教室で児童を出迎えた。休み時間も見守るように体制を整えた。トラブルがあった時だけでなく、日頃から子供たちとコミュニケーションを多くとり、信頼関係をより強固なものにしていきたい。

⑧ 子供たちは、毎日楽しく学校に通っている（95%以上）

【87%】

昨年度より2ポイントアップした。「よくできている」が52%で、「できている」（35%）より多いことはよかったと考えている。また、「どちらともいえない」が

10%あることから、いわゆる「ふつう」の日も多いことが分かる。「学校が楽しい。」ということは、学校とご家庭、地域すべての願いだと考えているが、目標の数値に達していない結果となった。児童の笑顔が輝くような学校生活になるように、努力していきたい。また、今年度も、学校は、いじめ防止対策方針に則って、アンケートなどを実施して、児童の困り感に、対応してきた。さらにきめ細かく対応し、「楽しくない。」と思う子供の心のあり様に気付いていけるよう努力していく。また、漠然とした不安を抱えて、学校に気持ちが向かない児童もいるので、サポート体制をつくり、八小の児童一人一人が、自分らしく学校で過ごせるように、心に寄り添っていく。

⑨ 毎日10分×学年の時間、家庭で学習（宿題を含む）をしている（90%以上）

【78%】

昨年度より4ポイントアップしたが、目標には届かなかった。今年度、校内研究を通して、家庭学習を授業の続きと考え、タブレットを活用して学びを振り返ることを推奨してきた。次年度は、引き続き啓発に当たり、児童のタブレットに収録したe-ポートフォリオを学びの記録として主体的な学習習慣を確立させたい。また、本校は、英語のデジタル教科書を、家庭学習に活用しており、活用頻度が向上している。こちらは継続していく。同時に、計算や漢字など、基礎基本の定着のために、宿題として家庭学習での復習も大切である。10分×学年という時間については、今後検討していく。

⑩ 子供たちは、楽しく読書に取り組んでいる（80%以上）

【51%】

「よくできている」と「できている」を合わせて3ポイント上昇した結果となったが、「どちらともいえない」が28%と多いことから、読書に取り組んでいる時期的な差があると考えている。しかし、「あまりできていない」と「できていない」を合わせて、21%あることから、読書に親しむ習慣を増やす必要性を感じている。

「図書室」である「メディアセンター」は、明るく、広く、使いやすくなり、蔵書の新しい本も増やし、データ管理して、貸出を充実させている。次年度は、さらに蔵書を充実させ、読書月間を充実させて、全校で児童の主体的な読書活動の推進に取り組む。今年度も、おはなし会のボランティアの皆様により、読み聞かせを行っていただき感謝申し上げます。

2 予算の活用状況

(1) 府中市「学校経営支援予算」について

配当額 5、971、000円（サポートルーム運営予算を含む）（執行率94.0%）

【内訳】

- 学習支援員3名（1・2年算数指導補助、体育指導）内訳28.4%
- 学校図書館支援員1名（図書室の整理整頓、担任指導補助）内訳10.8%
- 生活指導支援員6名（学級支援、児童の相談相手）内訳54.8%

〈取組と自己評価〉

算数TT指導は、1・2年生で実施した。新しい指導員が、学習の積み残しがないよう担任の補助的業務を行い、学力の向上を図った。また、重要な校務にかかわる教員の支援として、2年生の2学級で、実績ある講師が体育指導を行った。

学校図書館支援員は、本校に長く勤務する支援員が、図書指導での担任の補助やメディアセンターの図書管理、環境整理を行った。また、担任が学習で必要としている資料等を提供する活動を行い、年間を通して計画的に学習を支援した。

生活指導支援員も、本校に長く勤務する支援員を中心に、児童の基本的な生活習慣の定着のために、児童に寄り添う支援を行った。支援を必要としている児童のいる学級に随時配置したほか、全校的な視野で、困っている児童に声をかけるなど、きめ細やかに対応した。

また、サポートルーム担当として、2名の支援員に兼務していただき登校支援ができた。今後も児童の気持ちに近い支援員を配置し成果を上げていく。

(2) 府中市「副校長等校務改善支援事業予算」について

配当額 1,812,160円（執行率100%）

○校務改善支援3名

○業務内容

- ・副校長事務補佐・校舎職員室等環境整備・諸資料整理（ファイリング）
- ・学習支援員予算事務・諸調査報告事務
- ・教科書事務・転入転出事務・印刷事務 ほか

〈取組と自己評価〉

今年度も引き続き、本校に長く勤務している支援員に、副校長や教員の業務を助けていただいた。それにより、副校長の校内巡視や児童への指導、教員の人材育成にかかる時間を確保できた。様々な印刷業務、教職員や支援員の出退勤管理、多岐にわたる資料の整理などを担当していただくことにより、副校長や教員の事務時間を大きく軽減し、児童や保護者への対応に取り組む時間が捻出できた。

（３）「未来へつなぐ府中 2020 レガシー予算」について

配当額 100,000円（執行率100%）

【内訳】

○講師謝礼 98,000円

○鼓笛活動備品 2,000円

〈取組と自己評価〉

持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育成する「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」として、昨年度に引き続き今年度も取り組むこととなった。本校では、鼓笛活動を中心にオリンピック・パラリンピックの精神に基づいて、鼓笛活動から豊かな国際感覚をはぐくむための選曲を行い、運動会や移杖式での発表を行った。また鼓笛活動を通して、「ふるさと府中」に目を向け、地域に貢献する意識を高めることができた。市制70周年記念パレードに参加できたことは、大きな成果である。その他にも、府中の歴史について調べ学習を行ったり、稲作の体験活動を行ったりして、歴史・文化・伝統を引き継ごうとする心を育んだ。

（４）東京都「学校と家庭の連携推進事業予算」について

配当額 367,440円（執行率65.3%）

【内訳】

○支援員 228,480円

○スーパーバイザー 18,000円

〈取組と自己評価〉

学校に気持ちが向かない児童や、学校生活の中で友達とのかかわりに困り感をもつ児童、授業中に集中力が継続できない児童などに寄り添い、きめ細かい声かけやアドバイスなどの支援を行ってきた。今年度児童は、概ね落ち着いて学校生活を送ることができており、また担任が家庭と概ねよく連携が取れていた。執行率は下がっているが、危機管理上、予算確保は必要である。次年度も、家庭との連携を強化して、ともに児童に寄り添うことに力を入れたい。

また、今年度ベテランの新しいスクール・カウンセラーが本校の担当となった。スーパーバイザーを依頼し、カウンセリングマインドの大切さや、保護者の思いや願いを理解し、気持ちに寄り添って丁寧に対応することの重要性について、心理学の専門的な立場から、教職員や保護者に助言する機会をもつことができた。特に、道徳授業地区公開講座の講演会に、講師になっていただき、子育ての悩みなどについて、会場の保護者と意見交流ができたことは大きな成果である。その後の面談の依頼数が増加しており、学校と保護者との架け橋となっている。次年度も引き続き依頼したいと考えている。

以上